

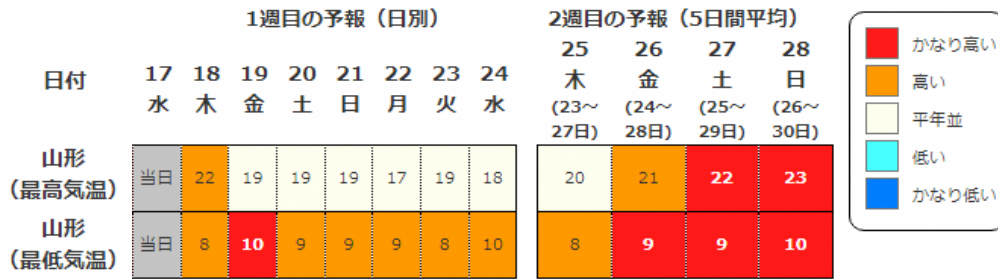
稲作だより

第3号 育苗・圃場準備編

令和6年4月17日

最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1333

この先2週間の**最高気温は、平年並み～かなり高い日が多い**見込みです（気象庁、4/17発表）。苗の温度管理に注意しましょう。



出芽期の温度管理に注意

催芽時に芽切れに時間がかかる、芽切れがやや不揃いとなる事例が見られています。これから播種する方は、十分な催芽時間を確保し、芽切れを確認して播種しましょう。

特に、無加温出芽（育苗機を使用しない）の場合には、日中になるべく出芽の最適温度となるよう管理して出芽を促し、出芽揃いを良くしましょう。

ただし、病害の発生を助長する可能性があるため、必要以上に高温・過湿の管理にならないよう注意が必要です。

表 育苗中の温度管理

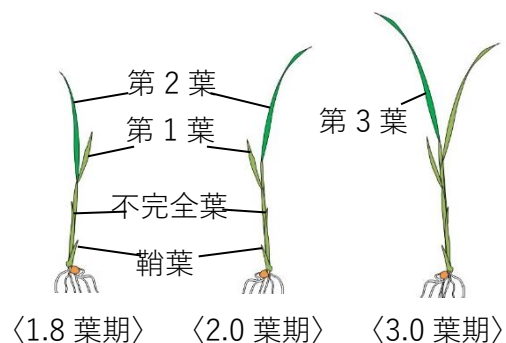
時期	温度管理
出芽期	30～32℃ （出芽の最適温度）
緑化期 （1.0葉期）	（昼）25～30℃ （夜）15℃
硬化期 （1.5葉期以降）	（昼）15～20℃ （夜）8℃以上

適期の追肥で健苗を移植

追肥時期の目安は、下表のとおりです。追肥量は、1回につき窒素成分で1g/箱が目安です。**高密度播種苗でも、移植の5～3日前に追肥することで、移植後の初期生育が確保しやすくなります。**

表 苗の種類と追肥時期

苗の種類 （移植時葉数）	追肥時期
中苗（3.5葉）	2.0葉期、3.0葉期
稚苗（2.5葉）	1.8葉期
高密度播種苗（2.0葉）	移植の5～3日前



土づくりで気象の変動に負けない稲づくり

1 土づくり肥料の施用

ケイ酸肥料やリン酸肥料、塩基（石灰、苦土、カリ）を含む肥料等の施用が気象変化に負けない稲づくりに重要です。

継続的な施用により、極端な天候の年次でも、収量が安定しやすくなります（右図）。

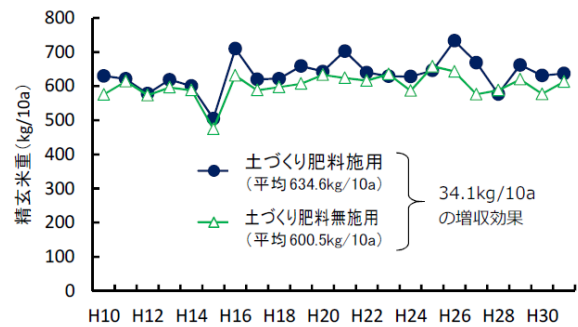


図 土づくり肥料の連用の効果（農総研）

2 耕起深（15cm）を確保

稲の根域を広げることで、土壌からの養水分を吸収しやすくし、気象の変動に負けない稲を作ります。ロータリー耕では、**トラクターの作業速度が速いほど耕起深は浅くなりやすいので、急がず、計画的に耕起作業を進めましょう。**

3 品種・地力に応じて基肥量を決める

極端な多肥は、稲の受光体勢を悪化させ、病虫害の発生を助長し、かえって収量品質の低下に繋がる可能性があるため避けます。**堆肥を入れている圃場では、堆肥の肥効分を基肥から減肥しましょう。**

表 施肥量の目安

単位：窒素成分 kg/10a

地力	つや姫	雪若丸	はえぬき	ひとめぼれ	あきたこまち	ヒメノモチ
地力高	3.0	4.0	4.0~5.0	4.0	5.0	5.0
地力中	4.0	5.0	5.0~6.0	4.5~5.0		
地力低	4.0~5.0	5.0~6.0				

- ・ 全量基肥（一発肥料）栽培では、品種別の基肥基準量 + 穂肥基準量の合計量を超えない量を目安に施用します。
- ・ 側条施肥では、全層施肥よりも肥料の利用効率が高いため、状況に応じて減肥しましょう。

LINE 公式アカウント 「最上ベスト稲作」

登録者募集中（無料）！

最上地域の水稻に関する技術情報や、研修会の案内などがスマホで受け取れます。



登録用QR